

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!

あの手この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

2010
11
月号



しっかり準備して飛んでいきます。
—雁—

大和市民活動センター【拠点やまと】 第42号 2010年11月1日発行



もう夏は
過ぎ去ってしまったと
野山の草花が
そっと知らせてくれる
夏が残して行った
眩しい太陽の輝きから
ゆっくりと育んだ命が
茜色に染まっていく

寿

作品:「からすうり」金子 寿

今号から3回シリーズで金子寿(ひさし)さんの作品が表紙を飾ります。p.4にも金子さんの絵を掲載させていただきましたが、スペースの都合で絵のみの掲載となりました。

金子さんは大和市民活動センター登録団体の「大和市芸術文化振興会」の代表・小林三夫さんの指導で絵を描くようになったそうです。

6日(土)、7日(日)のカッコフェスタ'10の会場にて、金子さんの詩画の原画を展示しますので、ぜひ、直接ご覧になってください。ポストカードの販売もします。

*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

<送付の際、同封されているご案内>

- ・カッコフェスタ'10の会場案内チラシ
- ・第35回連続共育セミナー「プレゼントの文化って?～感謝祭からクリスマスへ～」のご案内
- ・「ボランティア見学会」参加のお知らせ



「センター」のシンボルツリー 大銀杏のひとりごと

毎年、「カッコフェスタ」に合わせるように黄葉を始める。そして1ヶ月も経つと、全部の葉を見事に黄葉させる。「どうだ。見てくれ」と。見上げる人間は過ぎた1年の経過をそれぞれに思う。

大和市民活動センター
第5回市民活動団体交流まつり

いよいよ
はじまいま〜す♪

カッコーフェスタ'10

～活かそうひろがりの“わ”～

11/6(土)、7(日)はセンターに集合!

参加しなければ、何も始まらない。

さあ、今年はどんなステキな出会いがあるか。

ワクワクしてきます。

市民活動団体交流の「活・交」が「カッコー」です。
登録団体のみなさんとアイデアを持ち寄り、
楽しい企画で活動の輪をひろげていきましょう。



「やまといきいき健康体操」で
心と体を解きほぐして
さあ、スタート!



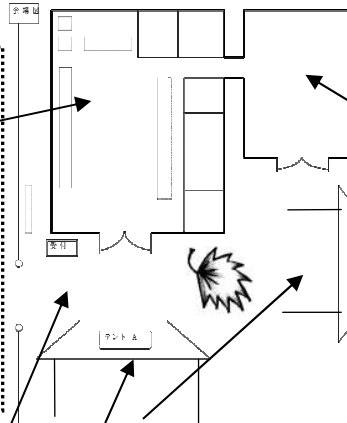
今週だよ。
来ないと損するよ。



カッコーフェスタのキャラクター
カッコちゃん

★館内フリースペースでは…

- ♥「あの手この手」今号の表紙絵・金子寿さんの詩画の原画を展示します。ぜひ、ご覧ください。ポストカードの販売もします。
- ♥英語で「はらぺこあおむし」の読み聞かせ、フルーツソングも英語でいっしょに歌おうよ。
- ♥バルーンアートも楽しめますよ。



★館内会議室では…

- ☆パネル展示
 - ☆活動の話を聞く
 - ☆おりがみ制作
 - ☆タオル帽子作り
 - ☆訪問カウンセリング
- etc.

参加団体 (10/27 現在)

- ありがとうの和の輪
- WE21ジャパン大和
- おりがみサークル
- 柏木学園高校短歌書道部
- くじらのしっぽ
- タオル帽子
- チームピースチャレンジャー
- ナルク横浜
- 日本オオカミ協会
- バルーンアートサークル
- 引地川水とみどりの会
- 柳とあそぼう引地川
- ラボ
- NPO訪問相談所あてんぼ
- 大和市民活動課
- 拠点やまと

★テントでは…

- ♡ 引地川で清掃活動をしている子どもたちが企画したゲームから何が見えるか。
- ♡ 海外の人達を支援するリサイクル品の販売。
- ♡ 海外の支援地からのコーヒー、紅茶の販売。
- ♡ オオカミの復活は何のため? パネルを見てください。



★路上パフォーマンスもあるよ(^v^)

- ♥ インスピレーションから生まれる詩と絵があります。一期一会を大切にしている詩人の前に座ってみてください。どんな詩と絵が生まれるか、お楽しみ。
- ♥ 「書道吟」って、知ってますか? 柏木学園の高校生が吟じます。

★スタンプラリーを楽しもう

会場内 8 箇所においてある“スタンプ”を押してください。
全部まわったら賞品がもらえるよ。



シールになった
カッコちゃん
スタンプもあるよ

センターからのお知らせ

- *「あの手この手」の「カッコーフェスタ'10」報告特集号を12/1(水)に発行します。
- *センターのホームページの「市民活動紹介コーナー」では、活動の様子を動画で配信しています。

「センター」のある日ある時

10月8日(金)晴れ

柏木学園高校の文化祭に行ってきました。ま一賑やかな教室に大変身! 廊下をすれ違う生徒が「こんにちは〜」次々と大きな声が響きます。焼き鳥やおでんの匂いに負けずに展示作品を見てきました。誘われて体育館に入ると、そこはぴーンと張った緊張感の「山月暗唱大会」。みんなで企画・準備をした若さと元気に圧倒された楽しいお祭りでした。(望月)

NPO 法人会計基準研修会を開催しました

10月25日(月)市役所の5階研修室において、全国79のNPO支援組織の参加で策定された「NPO 法人会計基準」の研修会を開催しました。講師は税理士の早坂毅先生。大和市内のNPO法人19団体、24人が参加しました。

NPO 法人会計基準の目的は公表する会計書類の形式を統一し、団体の活動実態を見る人にわかりやすくして、より多くの共感と支援者を得ることです。最初に質問を集め、それに答えるかたちで講義は進行しました。分厚い資料を見た時は一瞬、引いてしまいましたが、知らず知らずにNPO法人会計基準が頭に入って行きました。会計に関する決まりを強制するのではなく、多くの法人が準拠することで本当の基準となっていきます。先生の「まずは松竹梅の梅から始めてみましょう」で気持ちも楽になりました。(関根)



連続共育セミナー第 **35** 回を開催します

プレゼントの文化って? ~感謝祭からクリスマスへ~

日時: 11/15(月) 18:00~20:00

場所: 大和市民活動センター 会議室

ゲスト: 丸山澄枝さん(在日米軍厚木基地航空施設渉外部渉外専門官)



昨年、米軍厚木基地の人たちから高価と思われるプレゼントが市民活動センターに届きました。プレゼントする、されることが根付いている文化の背景を知るきっかけになれば、とセミナーを開催します。

子育て支援をしているグループの人たちのプレゼントの参考になれば、と思っています。参加は自由です。“文化や習慣の違い”などを話し合ってみませんか。

「芸術の秋」にふさわしい活動がここに...

中央林間かるた大会 10/20(水)開催
秋の一夜、老若男女「かるた」に夢中。
~「かるた」でつながり、街づくり~

主催: 大和商工会議所 中央林間地域会員交流会
協賛: 株式会社ゆうちょ銀行



10/23(土)、24(日)イオンモール大和で開催
第3回 やまと国際アートフェスタ
~わたしのゆめ~

主催: やまと国際フレンドクラブ(IFC)

会場は中央林間コミセン2階集会室。会場に着いてまず目に大きく入ってきたのは「中央林間かるた大会」という横看板。優勝カップ。そしてフロアには対抗戦なので座布団が6つつつ整然と並び、かるたの絵札も置かれている。その周りは参加者と応援団でぎっしり埋まって、なごやかな雰囲気ながらも、これからやるぞという26チーム。トーナメント戦直前の緊張が漂う。

さあ、スタート。まずは「中央林間博覧強記加留多」の作者・市川秀雄さんが文字札を高らかに読みあげる。「せ」の読み札は「閑取の 丁髷(ちょんまげ)姿 角力(すもう)場」、「た」の読み札は「多胡(たご)公園 翁(おきな)と媼(おうな)で 睦まじく」など、読むと「はい!」と言って、さっと手が出る。先に24枚獲得したほうが勝ち。みんな夢中でがんばる。会場が熱を帯びる。

優勝したのは「中央林間パンの家」の「ゼクロムチーム」。お母さんと娘さんと息子さん。抜群に手が速かったのは息子さん。この「かるた大会」のために一生懸命平がなを覚えたというまだ6歳の颯(はやて)くん。幼稚園の年長児だとか。

参加チームは大和市北部の中央林間地区の自治会、内山自治会、消防団、郵便局、銀行、個店、商店街など。終わってアルコール入りの懇親会。「いやあ、面白かった。カルタって意外に楽しい。また、ぜひ」という声多々。戦い終えてみんないい笑顔。(レポート/小杉)



応募総数496点の中から入賞作品277点の“夢”が飾られた会場は、投票用のペットボトルのキャップを手にした親子連れで賑わっていました。

すべての作品を額に入れてお返しすると聞いて、思わず「費用は大丈夫ですか?」と聞いてしまいました。額縁メーカーとスポンサーの協力を得て、何とか費用はトントンになったと聞いて、ホッとしました。

入賞作品の絵をひとり5枚ずつポストカードにしてプレゼント。印刷は「障害福祉サービス事業所あるむ」にお願いして、赤い羽根共同募金を有効活用しました。ペットボトルのキャップは世界の子どもたちのためのワクチンとして活かされますと、代表の長谷部美由紀さんから説明されて、この循環こそが“やまと国際フレンドクラブ(IFC)の夢”なのだと、理解しました。

部屋の真ん中に机を置き、誰でも自由にメッセージを書く空間がありました。たくさんのメッセージの中に「私と同じ夢を持っている人がいた。」との文章を見つけ、ほのぼのとした気持ちになりました。

応募したすべての作品が、それぞれの家庭で大事に飾られ、“ゆめ”が大切にされることを願っています。

(レポート/櫻井・石川)

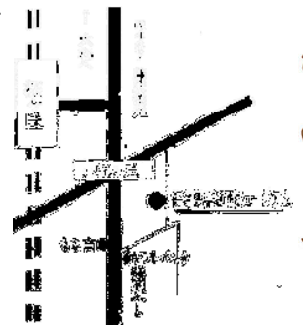
第2回 やまと子ども絵画大賞

~ ぼくのきねんび わたしのきねんび ~

11/6(土)に上位入賞者の表彰式があります

9/15(水)に応募を締め切り、小学1年生から中学3年生まで、テーマのとらえ方も様々で多彩な作品が集まりました。全作品を11/23(火・祝)まで [笹倉鉄平版画ミュージアム]に展示します。子どもたちの力作を、ぜひ、ご覧ください。

笹倉鉄平版画ミュージアム
神奈川県大和市上和田 1777
TEL: 046-267-0077



第 111 回 9/7(火) ~お母さんの心のケアとサポート~



くじらのしっぽ

子どもを怒りつけたり暴力を振るい、永く悩んでいる母親に「腹が立ってイライラしているんだね、その感覚を体で感じてみましょう。」と語りかけ、肩や腰に手を当てて、「いっしょにいるから何か言いたい事があったら教えてね。」と声をかけます。それだけでその人の体が安心する。体と心ってすごく不思議なんです。いろいろな人が最初におっしゃる言葉は、ひとりでもわかってくれる人、味方になってくれる人がいたらやっていける。「あなたにはあなたの良さがあり、あなたにしかできないことがある。人と比べなくていい。あなたはあなたを生きていけばいいのです」と語りかけました。



第 112 回 9/21(火) ~ひとりで悩まないで ~

くクロスオーバー大和>

福祉系の専門学校で教えていた頃、自分の未来を夢見て入学した人たちが、それぞれに抱えている課題が重く、専門学校で資格を取得しても、福祉の職場や利用者さんとうまく関わらず、仕事をやめてしまう卒業生が何人もいました。そのような人が苦しくなった時、逃げてこられる場、自立の準備をする場所を作りたいとの思いから、2010年4月に発足しました。ひとりで悩まないでください。なるべく早くいろいろな人の助けを借りてください。自分の思いを自分の言葉で伝えられるようサポートをしていきたいと、抱負を語りました。

第 113 回 10/5(火) ~自然や街の景観が地域の宝物~

く内山の街づくりを考える会>



「毛が3本さん」の自画像

地域の良いものを次の世代に引き継いでいこうという考えのもと、自然資源・景観資源・生活文化資源・人的資源に分けて調査を行いました。内山の活性化に繋がるようなものを細かく探し出しています。

「内山の街づくりを考える会」は自治会と連絡を取り合い、表裏一体の活動となっているところに特色があり、街づくりは別々ではだめだと感じています。

(放送当日はラジオネーム「毛が3本さん」が立会いました。)

第 114 回 10/19(火) ~自然のあるべき姿を求めて~
く日本オオカミ協会>

協会は野生動物や森の研究者達によって自然の生態系を復活させようと発足しました。北海道から九州まで240人の会員がオオカミを導入し、生態系を復活させようと活動しています。会員の方が持参したオオカミの写真集を見ながら話がすすんでいきました。オオカミは「人間を怖がり、森の奥深く住む」と聞いた後のオオカミの遠吠えは、とても悲しげに聞こえました。



くこれからの出演団体>

- 第 115 回 11/2(火)カッコーフェスタ出展団体
- 第 116 回 11/16(火)生活クラブ大和コモンズ
- 第 117 回 11/30(火)a wish

楽しそうに色塗りをしている人。看板を作って嬉しそうに眺めている人。今年もみんな準備をし、当日ワイワイお祭りデ〜！(望月則男)

前回運営のボランティアに来てくれたのは、なんとマカオからの留学生。フェスタは出会いが楽しみ。出会ってつながろう。(村山真弓)

「カッコーってなんだあ？」と、聞くヒトに「あなた、大和市民ではないですね」と言えるかな。うーん、それはまだまだ。あと5年。(小杉皓男)

産業フェアと同日開催で当日はたくさんの人出があります。この機会に多くの方に市民活動とセンターを知っていただければと思います。(中山みゆき)

熱血編集後記

テーマは「カッコーフェスタ '10 への思い」

初めての参加に常連さん、いろんな分野の団体が活動をアピールするカッコーフェスタ。多くの市民が訪れ交流できれば最高じゃん！(関根孝子)

2年前のカッコーフェスタが思い出される。昨年は病に倒れ、また今回は体調不十分で参加出来ないの、準備を手伝うことで、参加の意志をあらわすことにしている。(松村 襄)



絵:金子 寿

カッコーフェスタは産業フェアの一部？ある市民の一言。独自性を表す吊看板、PR パネルと説明、出展団体共々活動の広報に努めよう。(浅見正明)

人と人が出会って、つながっていく。当り前のようで、当り前でない。今年もどれだけの人と出会いがあり、つながれるか、楽しみです。(石川美恵子)

* 今号の用紙の色のように、センターのイチョウもこの色に染まっています。



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
広報紙「あの手 この手」。

11月1日付け11月号(第42号)をお届けします。

ちょうど今、「文化の日」をはさんで2週間、「読書週間」なのをご存知でしたか。

1947(昭和22)年、「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」と出版社や書店、図書館などが加わって第1回「読書週間」が開催されたのが初めです。今年の標語は「気がつけば、もう降りる駅」。本を読むことに夢中になっていて、つい駅を乗り過ごしてしまった。これ、誰にもある経験かもしれません。

さて、その読書の拠点である図書館。大和市にも公共の図書館/図書室と学校図書室がありますが、大和市の全小学校19校に学校図書館司書がこの9月から配置されました。また図書室の環境整備も進行中で、改装された図書室では利用する子どもがぐんと増えたとか。こうして「人」と「装置」を整えれば、ちゃんと子どもたちは呼応するのだと思ったものでした。

ところで、この9月にフィンランド4都市の公共図書館を視察、館長、司書の方々と面談してきました。どの図書館もただ本を置いている静的な存在ではなく、正に運動体そのものでした。

「フィンランド図書館政策計画2001-2004」によると、まず「(図書館は)すべての人に開かれ、民主主義に資する」とあり、いくつかの項目のひとつに「情報リテラシーを含む包括的なリテラシー(読み書き能力)を促進する」というのがあります。

例えば、タンペレ市のサンポーラ図書館(Sampolan kirjasto)では地域の保育園の子どもたちを年齢別に定期的に招き、生活の基本ツールとしてのパソコンについて「なぜ『マウス』って言うのかな?」など、基本のP.C.機器の扱い方から情報の読み取り方、送受信の方法などを丁寧に指導していました。またディスレキシア(=Dyslexia、「読み書き障害」と日本語では訳されず)がある子ども、青年へのケア、例えば音節ごとに字間をあける、大きな字にする、単純な構成にするなどの書籍を見てきました。それはあらゆる人に情報受発信の権利と平等を保障するというこの国の「生き方の基本」があるように思いました。「図書館を国やこの街のリビングルームにしたい」という司書の言葉のようにフィンランドの図書館は子どもを含め、生活者のすぐ隣にある存在です。国民ひとり当たりの年間貸し出し冊数は19.6冊(2006年調査)という数字にもそれが反映されているように思いました。

ところで最近、本を読んでいて「気がつけば、もう降りる駅」というような夢中になった本はありますか。

2010/11/01 記・[拠点やまと]広報係 小杉皓男

